『言語情報学研究報告』No.4（2004）

スペイン語[1]

木越　勉
（東京外国語大学大学院博士後期課程）

1. スペイン語の使用地域と人口

世界21の国と地域で，約3億5,000万人がスペイン語を母語としている。使用地域はスペイン，南北アメリカ大陸，アフリカに亘る。話者人口は，中国語，英語，ヒンディー語に次いで世界第4位で，使用されている国・地域の数の多さから言って，英語に次ぐ国際語である。

言語系統としては，インド・ヨーロッパ語族イタリック語派に属するロマンス諸語の1つである。もともとイベリア半島カスティーリャ地方の言語であったが，現在スペイン及びかつて植民地だった**表1**にある21の国と地域（括弧内は2003年央の総人口推定値）でスペイン語が公用語の1つとして話されている。

表1

〔ヨーロッパ〕	スペイン(4,106万)
〔南北アメリカ〕	メキシコ(1億346万)，グアテマラ(1,235万)，ホンジュラス(694万)，エルサルバドル(652万)，ニカラグア(547万)，コスタリカ(417万)，パナマ(312万)，キューバ(1,130万)，ドミニカ共和国(875万)，プエルトリコ(米自治領，388万)，コロンビア(4,422万)，ベネズエラ・(2,570万)，エクアドル(1,300万)，ペルー(2,717万)，ボリビア(881万)，パラグアイ(588万)，ウルグアイ(342万)，アルゼンチン(3,842万)，チリ(1,581万)
〔アフリカ〕	赤道ギニア(49万)
	総人口推定値合計(3億8,994万)

これらの国と地域の総人口推定値合計は3億8,994万になるが，そこから非スペイン語母語話者人口数千万を差し引かねばならない。一方，この他にアメリカ合衆国のヒスパニック人口3,530万人の半数がスペイン語の母語話者であること，またフィリピン，オーストラリア，モロッコ，西サハラ，バルカン諸国，イスラエルにもマイノリティーとしては相当数のスペイン語母語話者がいることを考慮すると，世界に約3億5,000万人以上の話者人口がいると推定される。

使用地域の総面積は地球の陸地の9%（1,200万平方キロ）を占める。

[1] 監修者　川上茂信東京外国語大学助教授。本稿は，東京外国語大学21世紀COE　言語運用を基盤とする言語情報学拠点　2004年度第4回定例研究会，2004年5月31日（月）における報告を基にして執筆された。

参考文献

Comrie, Bernard et al. (1996): *The Atlas of Languages,* New York.

Green, John. H. (1987, 1989): "Spanish," Comrie, Bernard (ed.): *The World's Major Languages,* Routledge, London, 236-259.

United Nations (2003): *Population and Vital Statistics Report 2003,* New York.

U.S. Census Bureau (2001): *United States 2000 Census,* Washington, D.C.

上田博人(1999)「上田博人のスペイン語」石井米雄・千野栄一編『世界のことば 100 語辞典 ヨーロッパ編』三省堂, 23.

総務省統計局・統計研修所編(2004)『世界の統計 2004 年版』総務省統計局.

寺崎英樹(1998)「スペイン語」東京外国語大学語学研究所編『世界の言語ガイドブック1(ヨーロッパ・アメリカ地域)』三省堂, 107-122.

山田善郎監修 伊藤太吾・中岡省治・高垣敏博・宮本正美・出口厚実・田澤耕・三好準之助著(1996)『スペインの言語』同朋舎出版.

2. スペイン語の規範・方言概略

本稿では, 広範なスペイン語使用地域の中でもスペインのスペイン語を扱い, その標準的なものとしてスペイン中央部とその周辺地域で話されるスペイン語を採り上げる。/**s**/と/**θ**/の対立があり, -s の気息化が一応なく, ll と y は[**j**]または[**ʝ**]音で発音される現象 yeísmo が一般的であるという特徴を持つ音声体系をモデルとする。この音声体系はスペインでは一般的によく使われ, マスメディアでもよく聞かれ, 受け入れられているもので, スペインのみならずスペイン語圏のどこでも通用する変種である。

スペイン語は広大な地域で話されている割には方言差が少ない言語だといえる。このことを踏まえた上でスペイン語について概観する。

まずスペインは多言語国家である。カスティーリャ語 castellano のほかにカタルーニャ語 catalán, バスク語 vasco, ガリシア語 gallego などが話されている。スペイン語 español とはカスティーリャ語のことで, スペイン憲法により国家公用語として定められている。

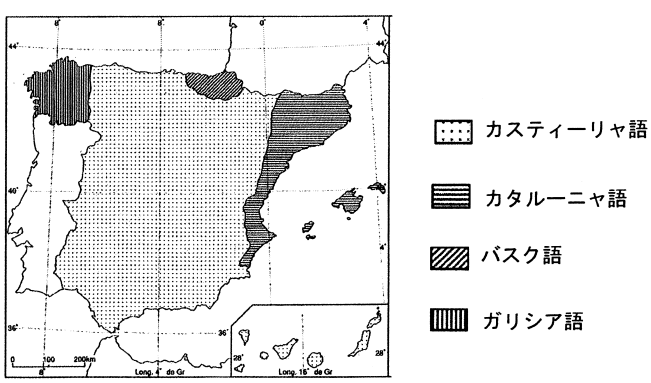


図 1 : スペインの言語地図 (山田 1996)

スペインの中でのカスティーリャ語の変種として特徴があるのが，南部のアンダルシア方言である。音韻的特徴としては，①/**s**/と/**θ**/の対立がなく[**s**]音で発音される現象 seseo や[**θ**]音で発音される現象 ceceo，②ll と y の対立がなく同じように発音される現象 yeísmo であるが，その/**j**/音が摩擦を伴うジャ行音[**dʒ**]であること，③音節末[**s**]の気息化 aspiración あるいは消失（例えば es-pa-ñol ‘スペイン語’を[**es-pa-ɲól**] ではなく[**eh-pa-ɲól**]/[**e-pa-ɲól**]と発音する），などが挙げられる。

一方，アメリカ大陸には，メキシコを中心とするナワトル語 náhuatl，アンデス北部のチプチャ語 chibcha，アンデス中央部のケチュア語 quechua，アイマラ語 aimara，南アメリカ南東部のグアラニー語 guaraní など数多くの先住民語があるが，スペイン語（カスティーリャ語）に関してはアンダルシア方言のもつ特徴が広くみられる。但し特に seseo はアメリカ大陸全体のスペイン語に共通してみられる現象であるが，yeísmo や音節末[**s**]の気息化，また[**x**]音が弱まりハ行音[**h**]になる（例えば Japón‘日本’を[**xapón**]ではなく[**hapón**]と発音する）等の現象の有無については一様でなく，地域差がある。

Dalbor (1969)はアメリカ大陸の方言を，メキシコ，中央アメリカ，カリブ，高地（ベネズエラ内陸部，コロンビア，エクアドル，ペルー，ボリビアの大半の地域），チリ，南方（アルゼンチン，ウルグアイ，パラグアイ）の 6 種に大別している。

Canfield (1981)は，アメリカ大陸におけるスペイン語の主な 3 つの音韻的特徴に沿って次のような地域区分をしている（**図 2～図 5** 参照）。

1. ll と y: 一般的には音素/**ʎ**/は失われていて/**j**/に集約されているが，次の地域もある。
   ① ときに[**i**]と発音する地域
   ② /**ʎ**/と/**j**/の対立がある地域
   ③ ll を[**ɟ**]，y を[**j**]と発音する地域
   ④ ll も y も硬口蓋破擦音[**ɟ**]あるいは[**ʃ**]と発音する地域
2. rr と r:
   ① /**r**/が歯茎凹摩擦音化する傾向がある地域
   ② /**r**/がふるえ音化する傾向がある地域
   ③ 音節末の/**l**/と/**r**/がときに音響的に等しくなる傾向がある地域
3. s: アメリカ大陸スペイン語の/**s**/は通常高共鳴音で，舌尖歯音ではなく舌背歯茎音であることが多い。地域によっては凹化せず，[**θ**]に近い音になる傾向がある。
   ① スペインのように硬口蓋音化した舌尖歯音の[**s**]で発音する地域
   ② 音節末の[**s**]が気息化または消失する地域

図 2：アメリカ大陸スペイン語圏地図

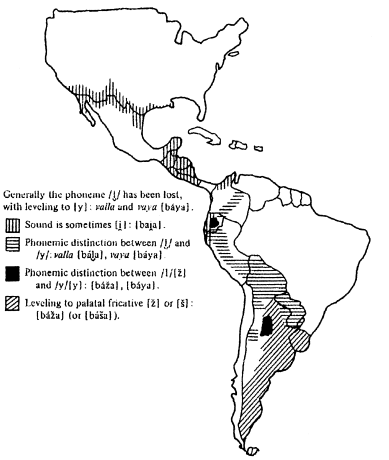


図 3：ll と y

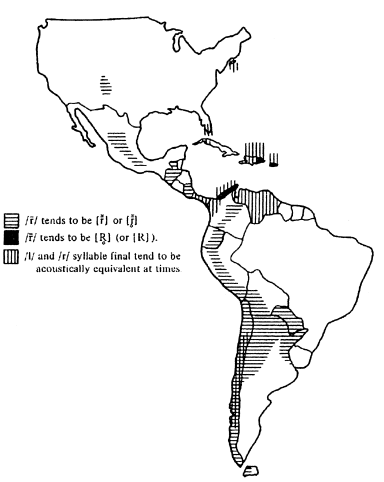


図 4：rr と r

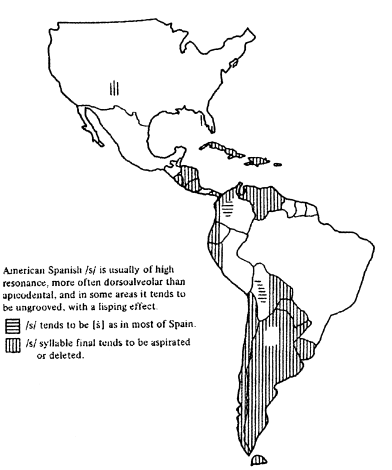


図 5：s

参考文献

Canfield, D. Lincoln (1981): *Spanish Pronunciation in the Americas,* The University of Chicago Press, Chicago, IL.

Dalbor, John B. (1969): *Spanish Pronunciation: Theory and Practice—An Introductory Manual of Spanish Phonology and Remedial Drill,* Holt, Rinehart and Winston, New York.

Lapesa, R. (1981): *Historia de la lengua española,* Gredos, Madrid.

三好準之助(1995)「アメリカのスペイン語」山田善郎他『中級スペイン文法』白水社, 590-604.
山田善郎監修 伊藤太吾・中岡省治・高垣敏博・宮本正美・出口厚実・田澤耕・三好準之助著 (1996)『スペインの言語』同朋舎出版.

3. 文字と発音

スペイン語のアルファベットalfabetoは, スペイン王立アカデミーReal Academia Españolaを含むスペイン語圏諸国のアカデミーの集まりであるスペイン語アカデミー連盟 Asociación de Academias de la Lengua Españolaによれば29文字とされている。

英語のアルファベットと同じ26文字にスペイン語固有の文字ñ, ならびに複文字dígrafoといって1文字扱いされるchとllの2文字を加えた29文字が1803年に刊行されたアカデミーの辞書第4版でアルファベットとして制定されて以来, 今日に至るまで正式には29文字とされているが, 諸国際機関からの国際規格統一を目的とする要請を背景に, 1994年マドリードで開かれたスペイン語アカデミー協会第10回会議において, ch, llを複文字として扱うのをやめ, それぞれc, h, l, lとして扱う改定が決議された。それまでに出版された辞書では, chがcの後dの前, llがlの後mの前, ñがnの後oの前にそれぞれ独立した項として配列されていたが, その後chとllについてはそのような扱いはされなくなった。また, rrも複文字として扱われることもあったが, この文字は語頭に現れないため辞書にrrの独立した項はもともとない。

教育的には, 英語のアルファベットと同じ26文字にñを加えた27文字をアルファベットとして教えることも行われている。アルファベットと別にch, ll, rrを複文字として説明することもある。

表2: スペイン語のアルファベット alfabeto

大文字	小文字	呼び名	発音表記	
A	a	a	**[á]**	1
B	b	be (be alta, be larga)	**[bé]**	2
C	c	ce	**[θé]**	3
D	d	de	**[dé]**	4
E	e	e	**[é]**	5
F	f	efe	**[éfe]**	6
G	g	ge	**[xé]**	7
H	h	ache	**[átʃe]**	8
I	i	i	**[í]**	9
J	j	jota	**[xóta]**	10
K	k	ka	**[ká]**	11
L	l	ele	**[éle]**	12
M	m	eme	**[éme]**	13
N	n	ene	**[éne]**	14

Ñ	ñ	eñe	**[éɲe]**	15
O	o	o	**[ó]**	16
P	p	pe	**[pé]**	17
Q	q	cu	**[kú]**	18
R	r	ere (erre)	**[ére, ére]**	19
S	s	ese	**[ése]**	20
T	t	te	**[té]**	21
U	u	u	**[ú]**	22
V	v	uve (ve, ve baja, ve corta)	**[úβe]**	23
W	w	uve doble (ve doble)	**[úβe ðóβle]**	24
X	x	equis	**[ékis]**	25
Y	y	i griega (ye)	**[í ɣriéɣa]**	26
Z	z	zeta (ceta, zeda, ceda)	**[θéta]**	27

(Ch	ch	che	**[tʃé]**)	
(Ll	ll	elle	**[éje]/[éʝe]**)	
(-	rr	erre	**[ére]**)	

注：句読点のほかに，文字の補助記号としてアクセント記号《´》(acento ortográfico または tilde)，分音符《¨》(diéresis または crema)が使われ，これらは綴りの一部である。それぞれの使い方については，「アクセント記号に関する規則」，「文字と発音⑥」を参照。

スペイン語は，基本的に 1 文字(字素)1 音対応をしている。例外は次の 10 点のみであり，文字と音との規則性が極めて高い。

① v の文字が b と同じで両唇・閉鎖音/**b**/を表わすこと

Bolivia‘ボリビア’ bravo‘すごい’

② ch, ll, rr の文字がそれぞれ/**tʃ**//**j**//**r**/と 2 文字で 1 音を表わすこと

salchicha‘ソーセージ’ paella‘パエリャ’ churro‘チューロ(棒状のドーナツ)’

③ y の文字が/**j**/と，語末では母音/**i**/を表わすこと(ll を[ʎ]と発音する話者は少なく，ll=y：/**j**/である地域が多い)

/**j**/: yen‘円(日本の貨幣単位)’ desayuno‘朝食’

/**i**/: voy‘(私は)行く’

④ c の文字が a, o, u の前で k と同じ[**k**]，e, i の前で z と同じ[**θ**]([**s**]の変種もある)となること

cacique‘酋長’ ceniza‘灰’

⑤ g の文字が a, o, u の前で[**g**]，e, i の前で j と同じ[**x**]となること

gigante‘巨人’ gente‘人々’

⑥ e, i の前では qu を用いて[**ke**],[**ki**]，gu を用いて[**ge**],[**gi**]，gü を用いて[**gue**]，[**gui**]音を表すこ

と(分音符«¨»は güe, güi の u の上にのみ使われる)

parque‘公園’ merengue‘メレンゲ’ vergüenza‘恥’

⑦ r の文字が語頭, l, n, s の後, 時によって語末でふるえ音[**r**], その他の環境でははじき音(たたき音)[**ɾ**]となること

[**r**]: rosa‘バラ’ alrededor‘周囲’ honrado‘誠実な’ Israel‘イスラエル’

[**ɾ**]: pera‘洋梨’ chorizo‘腸詰め’ cerebro‘脳’

⑧ ch 以外で h の文字は常に無音であること

hotel‘ホテル’ cohete‘ロケット’

⑨ x の文字が母音の前で[**ks**] ([**gz**]), 子音の前, 語頭で通常[**s**]となること(母音の前でも[**s**]と発音されることもある)

[**ks**]: examen‘試験’ taxi‘タクシー’

[**s**]: extranjero‘海外’ xilófono‘木琴’

⑩ 借用語にしか用いられない w の文字が, 主に英語からの借用語で[**w**] (時に[**gw**]), 主にドイツ語からの借用語で[**b**]と発音されること

[(**g**)**w**]: Wáshington‘ワシントン’ whisky‘ウィスキー’ web‘ウェブ’

[**b**]: Wagner‘ワグナー’ Watt‘ワット’

間違いやすい綴りは次の通りである。

[**k**]	ca	que	qui	co	cu	(カ行音)
[**ku**]	cua	cue	cui	cuo	cu	(クァ行音)
[**g**]	ga	gue	gui	go	gu	(ガ行音)
[**gu**]	gua	güe	güi	guo	gu	(グァ行音)
[**θ**]	za	ci (zi)	zu	ce (ze)	zo	
[**x**]	ja	ji, ge	ju	je, ge	jo	

参考文献

Real Academia Española (1999): *Ortografía de la lengua española,* Espasa Calpe, Madrid.

4. スペイン語の音節

4.1. 開音節の多さ

スペイン語の音節の特徴として, 日本語ほどではないが母音で終わる開音節が多いことが挙げられる。Deguchi (1988)の行った, スペイン語圏の 4 大都市の口語スペイン語コーパスから抽出した約 11,500 音節構成の調査結果によると, 68.62%が開音節, 31.38%が閉音節であった。

4.2. 音節内の母音

音節は, 必ず 1 つの母音を核として構成される。音節核となるのは単母音, 二重母音, 三重母

音の場合があり，二重母音も，三重母音も母音音素の連続であるとみなす。ただし，日本語の母音連続とは性質が全く異なり，スペイン語の二重母音，三重母音は滑らかに一気に発音される（例えば，「ウ-エ-ノ（上野）」に対して bue-no‘よい’）。スペイン語話者には，日本語の「ビヨウイン（美容院）」と「ビョウイン（病院）」の弁別が困難である。

単母音は a, e, i, o, u であるが，このうち a, e, o を強母音，i, u を弱母音とよぶ。

二重母音は強母音と弱母音，あるいは弱母音同士の組合せであるが，弱母音＋強母音もしくは弱母音＋弱母音の組合せを上昇二重母音とよび， ia, ie, io, iu, ua, ue, ui, uo の 8 種類，強母音＋弱母音の組合せを下降二重母音とよび，ai, au, ei, eu, oi, ou の 6 種類の可能性がある。i で終わる二重母音は語末で ay, ey, oy, uy という表記になる。

上昇二重母音： cordial‘真心のこもった’ pie‘足’ vio‘（彼は）見た’ viuda‘未亡人’ cuando‘～するとき’ luego‘後で’ ruido‘騒音’ cuota‘割当て’

下降二重母音： aire‘空気’ aura‘オーラ’ reina‘女王’ euro‘ユーロ’ boina‘ベレー帽’ bou‘引き網漁’ ¡ay!‘ああ’ rey‘王’ hoy‘今日’

三重母音は強母音を中心に弱母音が取り囲む形のもので，iai, iei, ioi, iau, (ieu), (iou), uai, uei, uoi, uau, (ueu), (uou)の 12 種類の可能性がある。i で終わる三重母音は語末で iay, iey, ioy, uay, uey, uoy という表記になる。

cambiáis‘（君たちは）変える’ vieira‘ホタテガイ’ dioico‘雌雄異株の’ miau‘ニャー’ Paraguay‘パラグアイ’ buey‘去勢牛’ guau‘ワンワン（犬の鳴き声）’

4. 3. 音節主音

二重母音，三重母音では強母音が音節主音になる。弱母音同士の二重母音（iu, ui）では後ろの母音が音節主音になる。

viuda‘未亡人’**[biúða]** fui‘（私は）行った’**[fuí]**

4. 4. 音節内の子音

一方，子音は特定の子音連続を二重子音とよび，音節を考える上で 1 子音扱いする。二重子音には，次の 12 種類がある。

pl, bl, —, —, cl (kl), gl, fl

pr, br, tr, dr, cr (kr), gr, fr

これら二重子音は，先に後続母音の口の構えをしておいて一気に発音する。そのため，2 つの子音の間に若干後続の母音が入っているように聞こえる。

pueblo‘町’ abrazo‘抱擁’ cristo‘キリスト’ refresco‘清涼飲料’

注：tl, dl は通常二重子音を形成しないが，tl は 2 通りの分け方が認められる。

atleta‘陸上選手’: at–le–ta または a–tle-ta

三重子音は存在しない。

4.5. 分節法

語を音節に分ける分節法 división silábica, silabificación は次のとおりである。

① 母音間に子音が 1 つのときは後ろの音節につける。

ca-la-ba-za‘カボチャ’　a-zu-ce-na‘シラユリ’

② 強母音が連続しているときは，音節を分ける。

o-a-sis‘オアシス’　a-se-o‘化粧室’

③ 子音が 2 つのときにはそれぞれ前後の音節につける。

ban-co‘銀行’　im-por-tan-te‘重要な’

④ 子音が 3 つ以上のときには 2 つを前の音節につける。

ins-tan-te‘瞬間’ cons-truir‘建設する’

この分節法を適用するに当たって注意すべきこととして次の 5 点がある。

イ. 二重母音，三重母音は 1 母音扱い，二重子音および ch, ll, rr の複文字は 1 子音扱いする（例：Eu-ro-pa‘ヨーロッパ’，U-ru-guay‘ウルグアイ’，can-gre-jo‘カニ’，de-re-cha‘右’，co-rre-o‘郵便’）。

ロ. h は音価がないが 1 子音として扱う。（例：chi-hua-hua‘チワワ’）。

ハ. gue, gui, que, qui の u は音価がないので ue, ui の二重母音を構成しない（例：al-guien‘誰か’，iz-quier-da‘左’）。

ニ. güe, güi は ue, ui の二重母音を構成する（例：pin-güi-no‘ペンギン’）。

ホ. 強母音と並んでいるアクセントのある弱母音（í, ú）は強母音扱いし，重母音を構成しない（例：ba-úl‘トランク’）。

参考文献

Deguchi, Atsumi (1988): “Variedad de las estructuras silábicas y sus frecuencias: Estudios cuantitativos sobre la sílaba y la fonología silábica del español contemporáneo (2)” *Lingüística Hispánica 11,* 1-19.

González Hermoso, Alfredo; y Romero Dueñas, Carlos (2002): *Fonética, entonación y ortografía,* Edelsa, Madrid.

Quilis, Antonio (1981): *Fonética acústica de la lengua española,* Biblioteca Románica Hispánica, Gredos, Madrid.

伊藤太吾(1995)「文字と発音」山田善郎他『中級スペイン文法』白水社，1-37.

川上茂信(1989): *Método práctico de pronunciación española,*私家版（日本語）.

川上茂信(1990)「西和辞典の発音表記」『AVEC Annual Report（東京外国語大学視聴覚教育センター年報）』5, 9-13.

出口厚実(1997)『スペイン語学入門』大学書林.

5. スペイン語の母音と子音

5.1. スペイン語の母音

スペイン語の母音音素は /**a**/ /**e**/ /**i**/ /**o**/ /**u**/ の 5 個である。

厳密には/**a**/ /**e**/ /**i**/ /**o**/ /**u**/とも異音があり，辞書の中には，開閉の異音**[e]**/**[ɛ]**，**[o]**/**[ɔ]**などを立てて発音記号表記を行っているものもあるが，意味の弁別はなく，意識すべき異音ではない。

表 3

音素	音声	用例	
/ a /	**[a]**	**[páso]**	*paso*‘通行’
/ e /	**[e]**	**[péso]**	*peso*‘重さ’
/ i /	**[i]**	**[píso]**	*piso*‘階’
/ o /	**[o]**	**[póso]**	*poso*‘沈殿物’
/ u /	**[u]**	**[púso]**	*puso*‘(彼は)置いた’

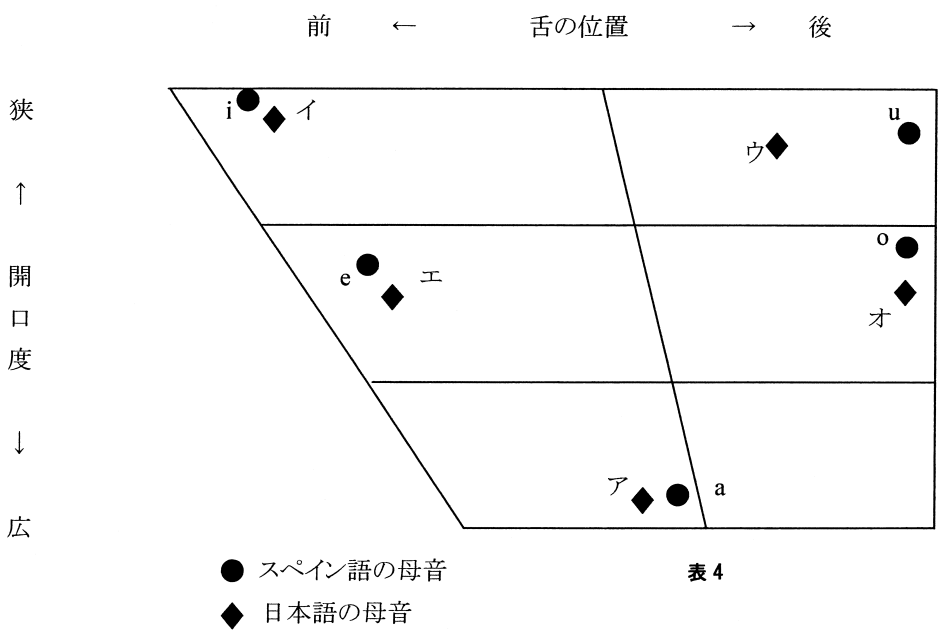


表 4

- 母音**/a//e//i//o//u/**はそれぞれ，文字 a, e, i, o, u で表わされる。他の母音に続く語末のアクセントのない**/i/**は y と表記する(アクセントのある**/i/**は í と表記する)。
- 日本語話者が特に注意すべき母音は**/u/**である。日本語の「ウ」より後寄りで閉じ気味に発音し，円唇化を伴わせる。
- 日本語には共通語などで無声化という現象があって，「キタ(北，来た)」，「フカイ(深い，不快)」の「キ」，「フ」の母音部分で声帯の振動がなく，母音として聞こえない発音がされるが，こ

れをスペイン語に持ち込まないよう，アクセントのない音節の母音を特にしっかり発音するよう注意が必要である。

quisiera‘～したいのですが’　supongo‘～だと思う’

5.2. スペイン語の子音

子音音素は**/p/ /t/ /k/ /b/ /d/ /g/ /m/ /n/ /ɲ/ /f/ /θ/ /s/ /x/ /tʃ/ /j/ /w/ /ɾ/ /r/ /l/** (**/ʎ/**) の 19 (20)個である。

/ʎ/は文字 ll に対応する音素だが，**[ʎ]**の発音をする話者はスペインとアメリカ大陸のごく一部に存在するのみである。本稿のモデル発音体系では**[j]**/**[ʝ]**音となるが，スペイン語の音素としては存在するので括弧に入れておく。

無声音**/f//θ//s/**に対する有声音は，音素として存在しない。

表 5

音素	音声	用例
《閉鎖音》		
/p/	**[p]**	**[kápa]**　*capa*‘マント’
/b/	**[b]**	**[báka]**　*vaca*‘雌牛’
	[β]	**[káβa]**　*cava*‘カバ(カタルーニャ産発泡ワイン)’
/t/	**[t]**	**[káta]**　*cata*‘試食’
/d/	**[d]**	**[dáma]**　*dama*‘婦人’
	[ð]	**[kaða]**　*cada*‘それぞれの’
/k/	**[k]**	**[káta]**　*caca*
/g/	**[g]**	**[gáta]**　*gata*‘雌猫’
	[ɣ]	**[káɣa]**　*caga*
《鼻音》		
/m/	**[m]**	**[káma]**　*cama*‘ベッド’
/n/	**[n]**	**[kána]**　*cana*‘白髪’
/ɲ/	**[ɲ]**	**[káɲa]**　*caña*‘(生ビール用の細い)グラス’
《摩擦音》		
/f/	**[f]**	**[káfa]**　*cafa*
/θ/	**[θ]**	**[káθa]**　*caza*‘狩猟’
/s/	**[s]**	**[kása]**　*casa*‘家’
/x/	**[x]**	**[káxa]**　*caja*‘箱’
《破擦音》		
/tʃ/	**[tʃ]**	**[kátʃa]**　*cacha*‘(ナイフ等の)柄’

《接近音》		
/j/	[j]/[ɟ]	[kája]/[káɟa] *calla*‘黙れ’, *Caya*‘カヤ(固有名詞)’
/w/	[(g) w]	[(g) wíski] *whisky*‘ウィスキー’
《ふるえ音》		
/ɾ/	[ɾ]	[káɾa] *cara*‘顔’
/r/	[r]	[kára] *carra*
《側面接近音》		
/l/	[l]	[kala] *cala*‘(岩の多い)入り江’
(/ʎ/)	([ʎ])	([kaʎa] *calla*‘黙れ’)

5.2.1. 調音方法による音の種類

閉鎖音 oclusivas
鼻音 nasales
摩擦音 fricativas
破擦音 africadas
ふるえ音 vibrantes
側面音 laterales

5.2.2. 調音位置による分類

両唇音 bilabiales
唇歯音 labiodentales
歯間音 interdentales
歯音 dentales
歯茎音 alveolares
硬口蓋歯茎音 palato-alveolares
硬口蓋音 palatales
軟口蓋音 velares

表 6

	両唇	唇歯	歯間	歯	歯茎	硬口蓋	軟口蓋
閉鎖音	p b			t d		ɟ	k g
鼻音	m				n	ɲ	
摩擦音	β	f	θ ð		s		x ɣ
接近音						j	
ふるえ音					ɾ r		
側面音					l	ʎ	

	硬口蓋歯茎
破擦音	tʃ

	有声両唇軟口蓋
接近音	w

5.2.3. 調音の方法

/p/:日本語のパ行音と同じ。但し，息を伴わない無気音である。

/b/:日本語のバ行音と同じであるが，閉鎖音**[b]**と摩擦化した**[β]**とがある。意味の弁別を伴わな

いのであまり気にする必要はないが，休止の後と m, n の後で閉鎖音[**b**]，それ以外の位置では摩擦化した[**β**]になる。

[**b**]: bienvenida‘歓迎’ hombre‘男’

[**β**]: tubo‘管’ tuvo‘(彼は)持った’ abre‘(彼は)開く’

/**t**/:日本語のタ行音と同じ。但し，息を伴わない無気音である。

/**d**/:日本語のダ行音と同じであるが，閉鎖音[**d**]と摩擦化した[**ð**]とがある。意味の弁別を伴わないのであまり気にする必要はないが，休止の後と l, n の後で閉鎖音[**d**]，それ以外の位置では摩擦化した[**ð**]になる。

[**d**]: dedo‘指’ alcalde‘市長’ conde‘伯爵’

[**ð**]: dedo‘指’ madre‘母’

/**k**/:日本語のカ行音と同じ。但し，息を伴わない無気音である。文字は a, o, u の前では c で， e, i の前では qu で表わす。文字 k は借用語にのみ用いる。

/**g**/:日本語のガ行音と同じであるが，閉鎖音[**g**]と摩擦化した[**ɣ**]とがある。意味の弁別を伴わないのであまり気にする必要はないが，休止の後と n の後で閉鎖音[**g**]，それ以外の位置では摩擦化した[**ɣ**]になる。

[**g**]: goma‘ゴム’ sangre‘血’

[**ɣ**]: lago‘湖’ algo‘何か’

/**m**/:日本語のマ行音と同じ。

/**n**/:日本語のナ行音と同じ。

/**ɲ**/:日本語のニャ行音と同じ。文字 ñ で表わされる。

/**f**/:日本語にはない音。英語の[**f**]と同じく，下唇に上歯を当ててファ行音を出す。

/**θ**/:日本語にはない音。舌先を上の前歯の先に当ててサ行音を発音する。英語の[**θ**]よりも少し摩擦が強い。文字 z および e, i の前の c で表わされる。スペイン南部とアメリカ大陸全域では，/**θ**/と/**s**/の対立がなく，/**s**/に合流する。

/**s**/:日本語のサ行音とほぼ同じであるが，厳密には日本語のサ行音よりも舌先が奥まった位置で調音するため，シャ行音に若干近い音になる(シャ行音になっては行き過ぎ)。

/**x**/:日本語にはない音。日本語のハ行音よりもずっと強い音。痰を吐くようにハ行音を出す。文字 j および e, i の前の g で表わされる。

/**tʃ**/:日本語のチャ行音と同じ。但し，息を伴わない無気音である。文字 ch で表わされる。

/**j**/:日本語のヤ行音，ジャ行音とほぼ同じ。文字 ll および y で表わされ，基本的にはどちらもヤ行音[j]であるが，話者や発音環境によって摩擦化したジャ行音[**ʝ**]になることもある。いずれも舌先は下の前歯の裏にあて調音する。話者によっては，ll は[**j**]，語末の y は[**i**]であるがそれを除く y は[**ʝ**]と発音し分けることもある。

/**w**/:日本語のワ行音と同じ[**w**]であるが，[**gw**]と発音されることもある。借用語にのみ用いられる文字 w で表わされる。

/**ɾ**/:日本語のラ行音と同じ。はじき音(たたき音)。

/**r**/:巻き舌のラ行音。ふるえ音。文字は基本的にrrで表わされるが，環境によってrで表わされる場合がある。「文字と発音」の項⑦参照。

/**l**/:日本語ではラ行音の異音としか捉えられないが，舌先を上の前歯の歯茎に押し当てたままラ行音を出す。英語の[**l**]と基本的に同じであるが，英語には，母音の後に現われる後舌面が軟口蓋に向かって高まる軟口蓋化した[**lˠ**](いわゆる暗いエル *dark l*)があるのに対し，スペイン語ではそのような発音はされない。

lado‘側’ hotel‘ホテル’ volver‘戻る’ español‘スペイン語’

(/**ʎ**/: もともと文字 ll で表わされる独立した音素として存在していたが，今はスペインでもアメリカ大陸でも一部でしか聞かれなくなっており，/**ʎ**/と/**j**/の対立はなく/**j**/に合流している。[**ʎ**]は日本語にない音で，舌先を下の前歯の裏につけて，前舌面を持ち上げて硬口蓋につけ，リャ行音を出す。)

日本語音でスペイン語にないものを挙げる。

① ザ行音:スペイン語話者にはサ行音との弁別が困難である。

② シ:スペイン語話者には「チ」との弁別が困難で，chi と認識されることがある。

③ ズおよびツ:スペイン語の近似音は su である。従って，「カス(粕)」，「カツ(勝つ)」，「カズ(数)」の弁別は，スペイン語話者にとって困難である。

④ ハ行音:スペイン語話者には j [**x**]とは認識されず，摸倣すると無音となることがある。

5.2.4. 子音に関わるその他特徴

- 語末に来る子音は限られており，s, l, n, r, z, d, j のみである(y は母音[**i**]を表わす)。このうち d と j については，弱まって無音化することが強い(例:reloj‘時計’)。語末の d は無音化のほか，[**θ**]と発音することもある(例:Madrid‘マドリード’，usted‘あなた’)。
- 語末に p, b, t, c/k, g, m, f, ch を綴り字にもつ借用語があるが，f以外は近似音で代替されたり消失しがちである。m は[**n**]と発音されることが多い。

  club [**klúb**]‘クラブ’ robot [**robó(t)**]‘ロボット’ clic/click [**klí(k)**]‘クリック’

  álbum [**álbun**] ‘アルバム’ golf [**gólf**]‘ゴルフ’ sándwich [**sán(d)wi(tʃ)**]‘サンドイッチ’
- 語末に 2 子音が続くことは例外的である(例:vals‘ワルツ’[**báls**])。x は丁寧に発音すると[**ks**]という 2 子音であるが，速い発話では，母音間や語末で[**s**]あるいは[**gz**]と発音されることがある(例:fax [**fá(k)s/fágz**]‘ファクス’)。
- 音節末には語末より多くの子音が現われるが，音節末の閉鎖音は，その後ろの子音に比べあまりはっきりと発音されず，後ろの子音と有声・無声が一致するなどの影響を受けることがある。

  ob-te-ner‘獲得する’ ad-qui-si-ción‘取得’ sig-ni-fi-car‘意味する’ óp-ti-mo‘最上の’ rit-mo‘リズム’
- 音節末の l, n, s の後に r が来るとふるえ音の[**r**]になるが，それとともに l, n, s の音は弱まり r

に同化される。語を跨いだ l, n, s と r の組合せも同じである。

al-re-de-dor‘周囲’　hon-ra-do‘正直な’　Is-ra-el‘イスラエル’　Es raro.‘それは珍しい’

- また，変種として，音節末，語末の s が気息化または消失する地域が，スペイン南部およびアメリカ大陸でかなり広範に存在する(「スペイン語の規範・方言概略」3. 参照)。
- [**z**], [**ð**]という音は独立して存在しないが，有声子音の前の/**s**//**θ**/が有声音になることがある。

desde‘～から’　isla‘島’　mismo‘同じ’　juzgar‘判断する’

- s+子音で始まる語は存在しえず，その前に e がつく。借用語で語頭が s+子音になっている語も，発音するときはその前に e がつく。

España‘スペイン’　estación‘駅，季節’　esquí‘スキー’　estrés‘ストレス’　Wall Street‘ウォール街’

- ps で始まる語では，p は発音されない。

psicología‘心理学’　psiquiatra‘精神科医’

- スペイン語の単語内には，-nn-以外の同子音連続は基本的にない。語を跨る同子音連続は，普通の速度ではほとんど 1 子音として発音される。

connotación‘含意’　innato‘生まれつきの’　los sábados‘土曜日(複数)’

- 声門閉鎖音[**ʔ**]や日本語の促音「っ」に当るものはない。

ojo‘目’（「オッホ」とは発音しない）

参考文献

Canellada, María Josefa; y Madsen, John Kuhlmann (1987): *Pronunciación del español, Lengua hablada y literaria,* Castalia, Madrid.

Dalbor, John B. (1969): *Spanish Pronunciation: Theory and Practice—An Introductory Manual of Spanish Phonology and Remedial Drill,* Holt, Rinehart and Winston, New York.

González Hermoso, Alfredo; y Romero Dueñas, Carlos (2002): *Fonética, entonación y ortografía,* Edelsa, Madrid.

Macpherson, I. R. (1975): *Spanish Phonology: Descriptive and Historical,* Manchester University Press, New York.

Navarro Tomás, T. (1918, 23ª ed. 1989): *Manual de pronunciación española,* Grafipren, Madrid.

伊藤太吾(1995)「文字と発音」山田善郎他『中級スペイン文法』白水社，1-37.

上田博人(1977)「日本語とスペイン語の音声」
http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/kenkyu/taisyo/index.html

上田博人(1994)「音声・音韻」国立国語研究所『日本語と外国語との対照研究 I　日本語とスペイン語(1)』くろしお出版.

川上茂信(1989)：*Método práctico de pronunciación española,*私家版(日本語).

川上茂信(1990)「西和辞典の発音表記」『AVEC Annual Report(東京外国語大学視聴覚教育セ

ンター年報)』5, 9-13.
川上茂信(1992)「/y/の発音教育」『スペイン語学研究』7, 東京スペイン語学研究会, 39-58.
斎藤純男(1997)『日本語音声学入門』三省堂.
出口厚実(1997)『スペイン語学入門』大学書林.
原誠(1985)「日本人学生にスペイン語発音を指導する際の技術的問題点」『AVEC Annual Report(東京外国語大学視聴覚教育センター年報)』1, 23-37.
山田善郎監修 伊藤太吾・中岡省治・高垣敏博・宮本正美・出口厚実・田澤耕・三好準之助著(1996)『スペインの言語』同朋舎出版.

6. スペイン語のプロソディー:アクセント・リズム・イントネーション

6.1. アクセント

スペイン語のアクセントは, 基本的には「強さ」であり, 日本語の「高さ」を基本とするピッチアクセントとは異なる。

6.1.1. アクセントの位置

アクセントの位置は, 終わりから3番目の音節までとなっていて, それより前の音節に置かれることはない(dígamelo 'それを私に言ってください' のような動詞に代名詞が後接した語, rápidamente '速く' のようなmente副詞は除く)。終わりから2番目の音節にアクセントがかかる次末音節強勢語 paroxítona, llana が最も多く, 最終音節にアクセントがある末尾音節強勢語 oxítona, aguda がその次に多く, 終わりから 3 番目の音節にアクセントがある次次末音節強勢語 proparoxítona, esdrújula はきわめて少ない。Quilis (1981)は 9,219 語を分布調査し, 単音節語とmente副詞を除くと, 次末音節強勢語(例 Bar-ce-**lo**-na'バルセロナ')は 79.50%, 末尾音節強勢語(例 Mad-**rid**'マドリード')は 17.68%, 次次末音節強勢語(例 **Cór**-do-ba 'コルドバ')は 2.76%という結果を得ている。

6.1.2. アクセント記号に関する規則

2 音節以上の多音節語についてのアクセント記号«´» (acento ortográfico または tilde)を付ける規則は次の通りである。

a. 母音で終わるか子音の n, s で終わる単語は, 次末音節(終わりから 2 番目の音節)にアクセントがあればアクセント記号は付けない。それ以外の音節にアクセントがある場合は, その音節の母音(二重母音, 三重母音の場合は音節主音)にアクセント記号を付ける。但し, 語末の s の前に他の子音がある語は, 次の「n, s 以外の子音で終わる単語」扱いをする(例:robots 'ロボット(複数)')。

b. n, s 以外の子音で終わる単語は, 末尾音節にアクセントがあればアクセント記号は付けない。それ以外の音節にアクセントがある場合は, その音節の母音(二重母音, 三重母音の場合は音節主音)にアクセント記号を付ける。

なお，文字 y は語末で母音/**i**/を表わすが，アクセント記号に関する規則上は子音字扱いする。

正しくアクセント記号が付けられたテキストを読むときは，上記規則を知っていればアクセントの位置を知ることができる。また，スペイン語を正しく綴るために，アクセント記号に関する規則を知っておく必要がある。

ほかに，単音節語で異なる語義，文法機能を区別するためにアクセント記号が付けられる決まりになっているものがある。

dé：動詞 dar‘与える’の接続法現在 3 人称単数形　　de：前置詞‘～の’

él：主語人称代名詞‘彼は/が’　　el：定冠詞男性単数形

más：副詞‘もっと’　mas :接続詞‘しかし’

mí：前置詞格人称代名詞‘私に’　　mi：所有形容詞‘私の’

ó：接続詞‘または’(数字と数字の間で使われる)

o：接続詞‘または’(語と語の間で使われる)

sé：動詞 saber‘知っている’の直説法現在 1 人称単数形，ser‘～である’の命令法単数形

se：再帰代名詞，間接目的人称代名詞

sí：副詞‘はい’，前置詞格人称代名詞‘自分自身に’

si：接続詞‘もしも’，名詞‘(音階の)シ’

té：名詞‘茶’

te：直接・間接目的人称代名詞‘きみを，きみに’

tú：主語人称代名詞‘きみは/が’

tu：所有形容詞‘きみの’

また，語を区別するための次のようなアクセント記号に関する規則がある。

指示詞 este, ese, aquel は，指示形容詞(‘この’，‘その’，‘あの’)として使うときはアクセント記号はつけないが，指示代名詞(‘これ’，‘それ’，‘あれ’)として使うときはアクセント記号をつけてもつけなくてもよい。

este coche‘この車’　　esa muñeca‘その人形’

éste me gusta‘これは私は好きだ’　ésa es mejor‘それの方がよい’

solo は‘ひとりきりの’という形容詞として使うときはアクセント記号をつけないが，‘ただ～だけ’という副詞として使うときはアクセント記号をつけてもつけなくてもよい。

Me gusta estar solo.‘私はひとりでいるのが好きだ’

Sólo me gusta beber agua.‘ただ水を飲むのが好きなだけだ’

aun は‘～でさえ’という意味で使うときはアクセント記号をつけない。‘まだ’という意味で使うときはアクセント記号をつける。

Aun así, no hizo el viaje.‘そうであっても，彼は旅行しなかった’

Aún es joven para salir solo.‘彼はひとりで外出するにはまだ幼い’

qué‘何’，quién‘誰’，cuándo‘いつ’，dónde‘どこ’など，疑問詞，感嘆詞には必ずアクセント記号をつける。

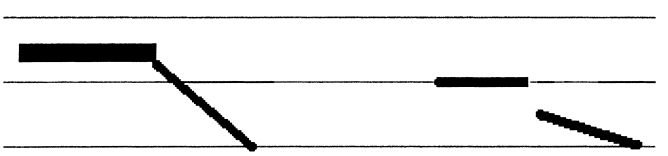
6.1.3. アクセント音節の長さと強さ

スペイン語のアクセント音節は長く発音されることがあるが，最も長い，語末が-n, -l 以外の末尾にアクセントがある音節の母音（例：sofá‘ソファー’，ciudad‘都市’）でも 100 分の 15～25 秒程度であり，日本語の長音のように認識するほどの長さではない。

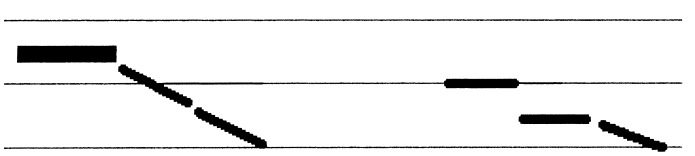
日本語と異なり，スペイン語は母音の長さが意味の弁別に関わらないので，スペイン語話者には日本語の「おばさん」と「おばあさん」の弁別が困難である。

スペイン語では強勢音節と弱勢音節の強さの差が大きく，日本語アクセントの高低差をそのままスペイン語に持ち込むと単調に聞こえる。

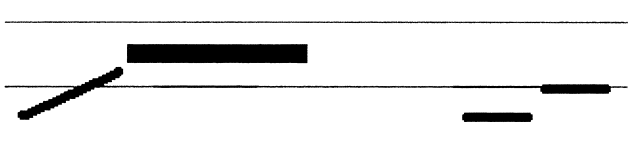
表 7（上田 1977）



スペイン語 /'ka sa/ (家)　　日本語 /kā sa/ (傘)



スペイン語 /'a ni mo/ (活力) 日本語 /ā ni mo/ (兄も)



スペイン語 /a 'ki/ (ここ)　　日本語 /a kī/ (空き)

6.1.4. 意味の弁別

時にアクセントの位置が品詞や意味の違いに関係することがある。

término‘用語’，ter**mi**no‘（私は）終える’，termi**nó**‘（彼は）終えた’

célebre‘有名な’，ce**le**bre‘祝いなさい’，ce**lebré**‘（私は）祝った’

6.1.5. 無強勢語

次の品詞はアクセントをかけない。定冠詞，所有形容詞短縮形，直接・間接目的人称代名詞，再帰代名詞，関係詞(el **cual** を除く)，前置詞(**según** を除く)，接続詞(配分の接続詞 **bien** と **ya** を除く)。

Quilis (1981)によれば，20,361 語の口語標本の調査の結果，無強勢語 átona と強勢語 tónica の比は 7,444 語対 12,917 語で，前者ではそのうち 90%が単音節語である。

6.2. リズム

アクセントのある音節もない音節もほぼ均等の長さで発音される。

6.2.1. 音段落の構成

文レベルの発音で特に重要なことは，語を跨って語末子音と次の母音または同子音との連接 enlace が行われ，アクセントのない同母音は 1 つに結合して音節の再構成が起きることである。また，強母音どうしは音節を構成しないが，日本語の母音のように単なる連続(例:「ア-オ(青)」)ではなく，二重母音，三重母音と同様に滑らかに発音される。こういった母音融合 sinalefa に注意を要する。

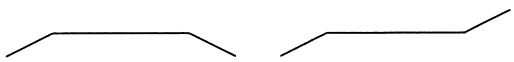
例えば，Todos los alumnos en la clase entienden y hablan español.‘クラスの生徒たちはみなスペイン語を理解し話す’は，tó-dos-lo-sa-lúm-no-sen-la-clá-sen-tién-de-niá-bla-nes-pa-ñól のように発音される。

文中で音段落 grupo fónico 毎に休止を置くのは別にして，分かち書きに忠実に単語毎に区切って発音する(あるいは声門閉鎖音[**ʔ**]を挟んで発音する)のは普通の速さでは極めて不自然である。学習者がこのことをよく理解し発音を訓練しないと，聞き取りが難しく感じることとなる。

6.3. イントネーション

6.3.1. 音段落のイントネーション

音段落のメロディーラインの基本型は次の A，B の 2 つである。



A　　B

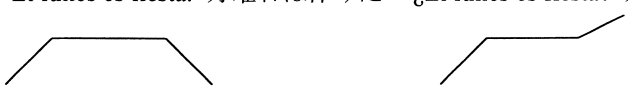
メロディーラインは 3 つのフェーズに分けられる。

1) 文頭から最初のアクセント音節まで

2)中間

3)文最後のアクセント音節から文末まで

El **lu**nes es **fie**sta.‘月曜日は休みだ’　¿El **lu**nes es **fie**sta?‘月曜日は休みですか？’



最終のフェーズが最も重要で，上昇，下降，中断の 3 つの抑揚がある。

上昇 ↑	下降 ↓	中断 →
¿Vive aquí?	Vive aquí.	Si vive aquí...
‘ここに住んでいるのですか？’	‘ここに住んでいます’	‘ここに住んでいるのなら･･･’

6. 3. 2. 平叙文のイントネーション

音段落が 1 つの文では，最初の音節にアクセントがある場合，高いところから始まり，文最後のアクセント音節まで横に伸ばし，そこから下降する。

Quiero **ir**me.‘もう帰りたい’

2 つ目以降の音節にアクセントがある場合，低いところから始まり，最初のアクセント音節から最後のアクセント音節まで横に伸ばし，そこから下降する。

Me **voy** a mi **pue**blo.‘私は郷里に帰る’

音段落が複数の文では，段落末毎に上昇し，文末で下降する。

Cogió una piedra ↑ | y la tiró al río ↑ | desde lo alto del puente. ↓
‘(彼は)石を拾い　川に投げた　橋の高いところから’

補節(説明文)を含む平叙文では，補節は上昇，その前の節は中断，その後の節は下降する。

El hombre viejo → | que estaba sentado solo ↑ | se quedó mirándome. ↓
‘年老いた男は　ひとりですわっていたが　わたしをずっと見ていた’
(前の音段落)　(補節)　(後の音段落)

括弧 paréntesis やダッシュ guion でくくられている音段落は下降し，前の音段落は上昇，後の音段落は下降する。

Si llegas tarde ↑ | (dijo el profesor) ↓ | no te dejaré pasar. ↓
‘遅刻したら，　(先生は言った)　入れてあげないよと’
(前の音段落)　(括弧内の文)　(後の音段落)

接続詞を伴わない列挙の音段落は，休止で終わり下降する。

Los turistas descansan, ↓ | toman el sol, ↓ | se bañan. ↓
‘観光客は休養し，　太陽を浴び，　海水浴をする’

列挙の音段落で最後から 2 番目に接続詞を伴うときは，その音段落は上昇し，その他は下降する。

El animal sacó la cabeza, ↓ | miró a su alrededor, ↑ | y se volvió a esconder. ↓
‘その動物は首を出し，　周りを見渡してから，　また隠れてしまった’

最後の音段落以外はすべて上昇の抑揚になることもある。

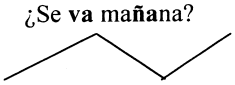
El animal sacó la cabeza, ↑ | miró a su alrededor, ↑ | y se volvió a esconder. ↓
‘その動物は首を出し，　　周りを見渡してから，　　また隠れてしまった’

6.3.3. 疑問文のイントネーション

疑問文には，質問する人には返事が肯定か否定かわからない絶対疑問文 interrogación absoluta と，ある程度の返事の予測がつく相対疑問文 interrogación relativa がある。

疑問詞を用いない短い絶対疑問文の抑揚は，文の最初のアクセント音節で平叙文よりも上昇し，次に文の最後のアクセント音節まで下降し，文末を最も高いところまで上昇する。

¿Se **va** **mañ**ana?



‘明日行ってしまうのですか’

相対疑問文は，文の最初のアクセント音節で上昇し，次の下降の程度が絶対疑問文よりも弱く，さらに，次に文の最後のアクセント音節で上昇してから，下降する。

¿Se **va** **mañ**ana?

‘明日行ってしまうの？’

付加疑問文には，¿no?，¿verdad?などを文末につけ，2 つの音段落を構成する。最初の音段落で下降してから，最後で上昇する。

Tú no tomas azúcar, ↓ ¿no? ↑
‘きみは砂糖を入れない　よね’

呼びかけで終わる文も，2 つの音段落を構成し，最初で下降してから，最後で上昇する。

¿Desea algo, ↓ caballero? ↑
‘何かお望みですか，　殿方’

長い疑問文は，2 つ以上の音段落に分かれる。最後の音段落だけ上昇し，その他の音段落では少し下降する。

¿Recuerdas lo que te dije ↓ la última vez que te vi? ↑
‘きみに言ったことを覚えているかい　前に会ったときに’

選択疑問文では，接続詞 o‘または’を伴うが，前の音段落で上昇し，最後で下降する。

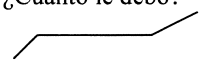
¿Vuelves hoy ↑ o mañana? ↓
‘今日帰るの？　それとも明日？’

疑問詞を伴う疑問文では，最初のアクセント音節でかなり上昇し，最後で下降する。疑問詞という要素が最初にあるので，文末を上昇させると疑問が誇張される。

¿Quién viene? ↓
‘誰が来るのですか’

礼儀をもって発話される疑問詞疑問文では，文末を上昇させる。

¿Cuánto le debo? ‘おいくらですか’



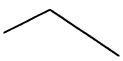
驚き，疑いを伴う疑問文では，文末を急上昇，急下降させる。

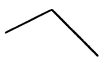
¿Quién ha venido? ‘誰が来たのだって？’

6. 3. 4. 感嘆文，命令文のイントネーション

1 語文では，メロディーラインの最高点は，アクセント音節と一致し，通常よりも長く，強く発音される。語中のすべての音ははっきりと発音される。

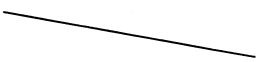
¡Mag**ní**fico! ‘すばらしい’　　¡**Se**ñora! ‘奥さん’





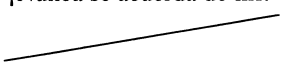
複数語の感嘆文，命令文では，メロディーラインの最高点は，強調したい語のアクセント音節と一致する。その音節が文の先頭にあれば，その後は下降する。

¡**Nun**ca se acuerda de mí! ‘あの人が私を思い出すことなど決してない’



その音節が文最後の音節であれば，文全体の抑揚が上昇する。

¡Nunca se acuerda de **mí**! ‘あの人が私を思い出すことなど決してない’



その音節が文の半ばにあれば，その音節まで文の抑揚が上昇し，その後文末まで下降する。

¡Nunca se **acuer**da de mí! ‘あの人が私を思い出すことなど決してない’

テクストの例：

| 非常に短い休止
|| 短い休止（約 1 秒）
||| 長い休止（約 2 秒）
→ 中断の抑揚
↑ 上昇の抑揚
↓ 下降の抑揚
⊔ 語末子音と次の母音または同子音との連接 enlace
‿ 母音融合 sinalefa または同母音結合

El viajero‿es␣un␣hombre joven, ↓ | alto, ↓ | delgado. ↓ ||| Está‿en mangas de camisa ↑ | fumando‿un cigarrillo. ↓ ||| Lleva‿ya varias␣horas sin␣hablar, ↓ | varias␣horas→ | que no tiene con quién ↑ ␣hablar. ↓ ||| De cuando‿en cuando bebe‿un sorbo ↑ | —ni pequeño ni grande— ↓ | de‿whisky ↑ || o silba, por lo bajo, ↑ | alguna cancioncilla. ↓ |||

En la casa todo‿es␣silencio; ↓ || la familia del viajero duerme. ↓ ||| En la calle sólo‿algún taxi errabundo rompe, muy de tarde‿en tarde, ↑ | la piadosa‿intimidad␣de los␣serenos. ↓ |||

—Camilo José Cela (1948): *Viaje a la Alcarria.*

'旅人は若くて背が高く，やせている。ワイシャツのそでをまくり上げ，タバコを喫っている。もう何時間も話をしないまま，何時間も話相手がないまま，過ごしている。時々，ウィスキー—少ないとも多いともいえない量—を飲んでは，何がしの歌を低く口笛でふく。

家中は静まりかえっている。旅人の家族は眠っている。通りでは，ただ時たま走る流しのタクシーが，夜回りのあの密かな犯しがたい空気を破る。'

カミロ・ホセ・セラ著 有本紀明訳(1991)『ラ・アルカリアへの旅』講談社.

参考文献

Canellada, María Josefa; y Madsen, John Kuhlmann (1987): *Pronunciación del español, Lengua hablada y literaria,* Castalia, Madrid.

Dalbor, John B. (1969): *Spanish Pronunciation: Theory and Practice—An Introductory Manual of Spanish Phonology and Remedial Drill,* Holt, Rinehart and Winston, New York.

González Hermoso, Alfredo; y Romero Dueñas, Carlos (2002): *Fonética, entonación y ortografía,* Edelsa, Madrid.

Navarro Tomás, T. (1918, 23ª ed. 1989): *Manual de pronunciación española,* Grafipren, Madrid.

Navarro, Tomás (1968): *Studies in Spanish Phonology,* University of Miami Press, Coral Gables, Florida.

Quilis, Antonio (1981): *Fonética acústica de la lengua española,* Biblioteca Románica Hispánica, Gredos, Madrid.

Quilis, Antonio; y Fernández, Joseph A. (1982): *Curso de fonética y fonología españolas para estudiantes angloamericanos, décima edición, revisada y aumentada,* Consejo Superior de Investigaciones Científicas, Instituto «Miguel de Cervantes», Madrid.

伊藤太吾(1995)「文字と発音」山田善郎他『中級スペイン文法』白水社，1-37.

上田博人(1977)「日本語とスペイン語の音声」
http://gamp.c.u-tokyo.ac.jp/~ueda/kenkyu/taisyo/index.html

川上茂信(1992)「/y/の発音教育」『スペイン語学研究』7，東京スペイン語学研究会，39-58.